

つなぐバトン 昭和から平成へ

シニア世代の経験聞く

久留米大の学生 ラジオ番組制作中



久留米大 久留米市の学生たちが、若者とシニア世代の対話をテーマにしたラジオ番組「つなぐバトン 昭和から平成へ」を制作中。11人の学生がそれぞれ、シニア世代の話を聞き、完成したラジオ番組は毎月4日、8日、12日、16日、20日、24日、28日の午後5時30分から、FM78.5MHzでオンエアされる。

70歳後 若者との対話テーマに
番組の企画、制作、収録、放送まで、学生たちが中心となって取り組んでいる。収録された番組は、毎週月曜日の午後5時30分から、FM78.5MHzでオンエアされる。

来月1月、地元FMで放送
岩坂浩子さんが、切れた録音テープを、今年10月、学生たちが「つなぐバトン」の収録に、シニア世代の話を聞き、完成したラジオ番組は、毎月4日、8日、12日、16日、20日、24日、28日の午後5時30分から、FM78.5MHzでオンエアされる。

シニア世代の経験聞く
久留米大の学生が、若者とシニア世代の対話をテーマにしたラジオ番組「つなぐバトン 昭和から平成へ」を制作中。11人の学生がそれぞれ、シニア世代の話を聞き、完成したラジオ番組は毎月4日、8日、12日、16日、20日、24日、28日の午後5時30分から、FM78.5MHzでオンエアされる。

2015年12月8日毎日新聞筑後版



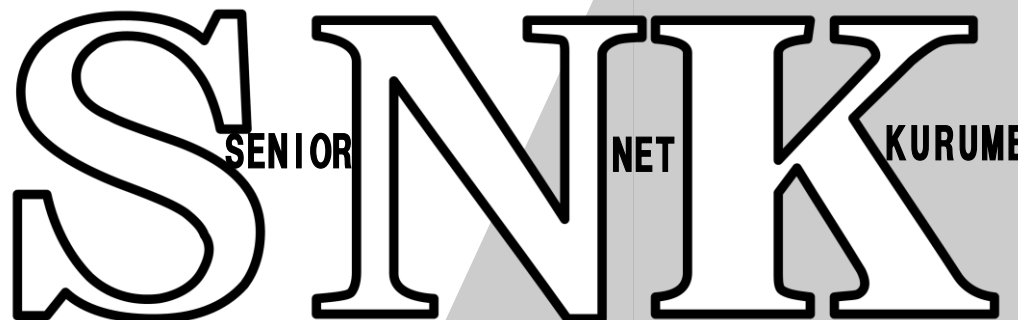
シニア世代の語り手たち

久留米大学の学生たちの、自主製作ラジオ番組を収録しました。学生11人がひとりづつ、ホスト役を務め、シニア世代の話を聞きました。語り手はシニアネット久留米の会員です。なお、これは平成28年1月にドリームスFMで放送されました。

左は毎日新聞の記事、写真は収録風景。

(語り手・年齢)	テーマ
石山 浩一郎(76)	好奇心
今津 一躬(77)	人間力
岡田 哲也(79)	若さの価値
太田 千鶴子(70)	失敗を恐れるな
島井 新一郎(78)	好奇心・「守破離」
杉野 佳代子(65)	ご近所の底力
田中 元一(68)	グローバルに
中丸 哲子(76)	戦争のむごさ、平和の大切
廣津 芳信(82)	方言の大切さ
福田 洋一(80)	平和・命の大切さ
小島 紀夫(75)	活かした知識

※ホスト役の学生は全員来年、新成人
※語り手のシニアの平均年齢 75歳
※SNK ホームページからご覧いただけます。
久留米大学非常勤講師 岩坂浩子 (SNK 会員)



編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 小島紀夫
久留米市御井町 387
TEL 0942-65-4545

時代は変わる

1・貧しさに慣れていく

昔の日本人は勤労と貯蓄を生活のリズムとして暮らした。戦中、戦後生まれ、そして団塊の世代と呼ばれる人たちが生きた時代は、戦後の荒廃から、所得倍増計画による途方もない経済成長を果した時代である。イザナミ景気と評された好景気を経験し、時代はドルショック、オイルショックと大きな荒波を用意していたものの、当時 TV に乗ったスーダラ節を聞きながら勤労者は仕事に励んだ。

庭のあるささやかな家を夢として働き、マイホーム世代は貯蓄に務めた。往年の紳士淑女は今やシニアとなり当時を偲ぶしかないが、ささやかな財は年金とともに、老後を生きる支えでもある。

新しい時代に生きる若者たちが陸続と育ってくる。平均身長が伸び、小顔が目立つ若者たちはどこかクールに見える。自己保身が強く、容易に本性は見せない…とマイナーな評判も聞く。ゆとり教育を経て、管理社会に馴らされて管理過剰に拒否反応を示す世代は、成長のプロセスを経ないまま等身大の自分を自覚できないように見える。結婚しない独身貴族、と昔はその少ない数から希少価値を認めていたものの、近年のそれは少子化と相まって大きな社会問題ともなりつつある。日本は世界でも例を見ない少子化が進行しつつある。

低賃金を求め海外へシフトした工場。グローバル化の波をかぶった日本は、人件費を抑えるため雇用の非正規化、パート化を図り人件費の削減に務めた。労働市場の小さくなった日本では大学を出ても仕事の無い若者たちが増え、共稼ぎ世帯が増え、貧困が付いて回りワーキングプア率は高くなった。バブル崩壊の90年代を経験した人たちは、新しい秩序を求めて世界を注視している、かに見える。

2・ネットの威力

ブログの話題で持ちきりだ。若い主婦の書くブログが巷でも国会でも話題だ。乱暴だが台風並みの影響を安倍政権に与えている。「保育園に落ちた、日本死ぬ!!!」それというのも安倍内閣がその政策の柱ともする「1億総活躍社会」を打ち出したが、「働けないじゃないか」と主婦は憤懣をぶちまけた。

ブログのつづやきは「保育園が足りない、待機児童をなくせ、もっと作れよ」は社会の声となって席卷したかに見える。慌てたのは厚生労働省である。施設が足りないのは低賃金にあぐら労働者不足、施設はあるが資格を持った人材不足が原因の一つである。保育園不足に同調した世間の声に、併せて低賃金の見直しも迫られかねない。資格保有者に拒否される労働市場であれば、政府としては放置もならない。うまくいかない保育園対策、予算が少ないからである。この論調にマスコミは面白がって好意的である。全国で保育園に入れない待機児童 23176 人(隠れ待機児童 49000 人)がいる限り、1億総活躍は出来ない…じゃないか、とブログに同調する世論。

今どきの情報ツール・ブログの威力を改めて教えた事件だ。「待機児童をなくす」方針を改めて見直し、急きょ政策に盛り込む雰囲気は芽生え国会でも論議された。民の声をブログは十分に果たした、声はいきなり政府、担当部署に届いた感がある。民主主義に聡い政府であれば放置もならず、大きな声は政策に反映させるのが利口な政権、とマスコミも大衆社会の檄に今や乗っている。

暫くはモノ言いたい市民団体や権利意識に目覚めた人たちが民の主張として権利を要求することとなるだろう。ネットを上手に使った新しい時代の民主主義、ということとなる。 編集長 一ノ瀬尚文

SNKの一本桜



3月の下旬だが、桜はまだ咲くには早すぎ、津福サロンでは「語ろう会」メンバーによるMTがあった。桜の花見4月6日予定桜はその時が満開。

(あとがき) 4月は何もかも生命を吹き返す、新しい風が吹いて制度が一新する。一年生の希望に満ちた笑顔に乾杯。(式)

会費：500円 会場：府中公民館 充実するSNKの講座

- *特別講座「次世代の楽々(楽ちん、楽しい) 介助」
日時：3月31日(木) 14:00時~16:00時まで
講師：津田 卓明氏
内容：介護・リハビリ・音楽を融合した楽しみながら脳機能活性と、身体機能向上をめざす。
- *特別講座の「着物の着付け講座」
日時：4月12日、19日(火曜：午前)
講師：石橋 和代(SNK 会員)
- *いきいきサロン担当の牟田です。
日時：4月4日、11日、25日(月曜：午前)
(注) 日程は予定、HPで確認ください
講師：牟田慎一郎(SNK 会員)
- *パソコン何でも相談
日時：4月1日、8日、15日、22日(金曜：午後)
講師：青木正伸(SNK 会員)
- *初めてのパソコン、ワード&エクセル
1・日時：4月8日、15日、22日、29日(火曜：午前)
2・日時：4月10日、17日、24日、31日(木曜：午前)
講師：1・金子忠次、2・赤司俊秀(SNK 会員)
- *写真とホームページ
日時：4月1日、8日、15日、22日(火曜：午後)
講師：中丸哲子
- *リナックス講座
日時：4月1日(金：午前)、18日(月：午前)
講師：高橋忠夫

注意：日程はHPで確認下さい。 副理事長 中丸哲子

特集 シニア世代はカフェへ集まろう、語ろう

認知症は誰にもやってくる



認知症への理解を広める会の代表江上憲一 snk 会員

SNK カフェ「素敵な名前を募集」を育てよう

超高齢化時代での社会的課題に、厄介で悩ましい「認知症防除」があります。

国は、昨年1月に、由々しき課題として、新オレンジプランとして、国家戦略に緊急に、格上しました。

その対策の一環で、全国に、「認知症カフェ」が国の支援を受けて、続々誕生しています。

(認知症カフェは、確定定義はありませんが、「認知症本人や家族の人及び、認知症に関心を持つ人、認知症が心配な人たちが集い、同席する認知症関連の専門家と共に、飲み物を飲みながらカフェ的な雰囲気の中で、悩みや色々なお喋りをする場所です)

全国で、1000か所近く、福岡県;43か所、久留米市内で、5か所と言われています。SNKには「認知症カフェ」を立ち上げる諸条件が、揃っていると思うのです。

- ・人的資源; 会員240名の中に、多様な人材がいる。
- ・物的資源; 御井町の事務所は、多くの部屋と、設備があり、駐車場もある。
- ・お金; 国の助成金制度があります。

要は、先ず、関心のある人たちが集まって、話合い、情報を交換し、実現化の可能性 探ることです。

会員平均年齢; 約73歳と言えば、高齢者の認知症患者が、平均15% (2012年調査時久留米市で、11000人の患者及び、予備群が、同数居るとの推定が発表されています) を超えて、認知症だけで73才ならば、約24%と思われます。

自分の事として、「話し合い」に、参加されませんか。

ご意見、参加の是非を当メールで、どうぞ、お寄せ下さい。

「SNK 認知症カフェ」立ち上げ懇談会有志より

シニアネット理事会決議事項

認知症カフェについて

関心があるだけではなく認知症をサポートする、基本的な知識や介護の初歩的な技術が求められます。またボランティアとしては、人権問題をはじめ人間同士が接触することで起きるだろう関係性が大きな問題となります。社会人としての尊厳を守りながら、人と人の間に発生する信頼を持ち続けることは、大変な苦勞を生むだろうと現在は思っています。人の尊厳を認めながら、徐々に壊れていく人間を見つめていく仕事と考えると少々辛い、また、認知する能力の問題と少しだけの個人的な欲求を噛み合わせて自身の意思を確かなものにしていきたい、そんな欲求も生まれそうです。

認知症カフェのメリット

- 1・認知症の人が本音で話せる
- 2・さまざまな情報を受け取れる
- 3・心理的な不安の軽減、心のよりどころ
- 4・単純な娯楽として
- 5・溜り場でリラックス
- 6・趣味の発見
- 7・地域や社会とのかかわり
- 8・友人や仲間ができる
- 9・支援し(助け)てくれる人がいるという気付き
- 10・専門家(医療従事者、ケアマネージャ)とのつながり
- 11・各種症状などの早期発見、診断
- 12・生き生きとした生活がおくれる
- 13・認知症の進行を遅らせる

デメリット

- 1・継続運営のむずかしさ
- 2・世間から認知症患者として未だ特別視されている
- 3・継続参加しないと改善効果が観察され難い



シニアは集まり話題を楽しむ、元気が一番です

無関心では いられない

高齢者の社会



SNKは 認知症になっても安心安全な街づくりを目指します

上全筑 宮原 池田 本屋

ギャラリー茶房
朝倉市杷木池田 228

全井手本屋

三階家
さん か い や

0120-063-650
月~土曜日: 8:30~17:30 / 日曜他休日有

伊之助めし